

平成 30 年度地域における青少年の国際交流推進事業 委託事業

平成 30 年度宮城県青少年国際交流推進事業

「サマースクール宮城・女川」

成果報告書



平成 31 年 3 月
宮城県教育委員会

1 趣 旨

- 宮城県内外の高校生等に、「国境も言語も世代も超えた多様な出会い」を通じて、社会性や勤労観を養い、自己を見つめ直し将来を真剣に考える機会を提供するとともにその成果を普及することで、みやぎの志教育を推進する。また同時に、外国語に親しみ、外国語への意欲と語学力の向上を図る。
- これからの復興を担う県内外の高校生・大学生が、海外の大学生に、現在の復旧・復興の様子を伝えるとともに、今後の復興についてディスカッションすることを通して、将来の宮城のあり方について考える契機とする。また、本事業を通じて国内外に宮城の復興の様子をアピールする。

2 事業実施体制 【別紙資料1】

(1) 実施体制

- ◎主催 宮城県教育委員会
- 共催 女川町、女川町教育委員会
- 協力 特定非営利活動法人 アスヘノキボウ
認定特定非営利活動法人 カタリバ・女川向学館
一般社団法人 HLAB

(2) 主催・共催・協力団体の役割

本事業は、「女川町」及び「女川町教育委員会」と共催するとともに、国際交流推進に係る各種プログラムを有する「一般社団法人 HLAB」（以下「HLAB」）と連携して事業を実施した。また、女川町における企画内容の構築や全体のプロジェクト運営におけるサポート役として「特定非営利活動法人アスヘノキボウ」（以下「アスヘノキボウ」）、及び女川町中高生との交流企画運営役として「認定特定非営利活動法人カタリバ・女川向学館」（以下「女川向学館」）も協力団体として加わった。さらに、自然体験活動及び防災教育の場として、「宮城県松島自然の家」（以下「自然の家」）と連携したプログラムを行った。

上記5団体と県教委とで実行委員会を組織し、適宜情報共有をしながら、それぞれの役割を明確化した上で、事業を推進した。

①宮城県教育委員会

- 本事業を主催し、全体の取り組みの企画運営に責任を持つ。また、事業実施に必要な協力主体を巻き込み、企画の進捗管理を行った。
- 県内高校に、サマープログラムに関する事前の広報活動を行った。
- サマープログラム終了後の12月に県内高校の関係者向けに報告会を実施し、県内高校生及び高校教員を中心に、活動の認知度を広めた。

②女川町及び女川町教育委員会

- 本プログラム開催に際して、町の所有施設を開催場所として提供した。（女川まちなか交流館、女川小学校等）
- 震災からの復興・復旧を目指す人々や地元企業に働きかけ、各種プログラムにその人財を提供した。
- 町内においては、町報での告知等、町内全域に情報が行き渡るよう積極的に広報活動を推進した。

③ HLAB

○本サマースクールの実施に向けて、海外大学生や通訳可能な英語力を有する国内大学生を組織化し、派遣した。

○本サマープログラムの主たる企画及び運営を担った。

④ アスヘノキボウ

○女川町の人財や地元企業に働きかけて、地元の商店街や地元企業でのワークショップ等を企画した。

○期間中のプログラム遂行においてアドバイスやサポートを必要に応じて行った。

⑤ 女川向学館

○女川町の中学生との交流プログラムを企画するとともに、当日及び事後のフォローアップを行った。

⑥ 自然の家

○登山、野外炊飯、キャンプファイヤー等の自然体験プログラム及び、防災ウォークラリーを企画・運営した。また、隣接する「東松島縄文村歴史資料館」と連携し、人と自然との調和について考える企画を行った。

3 事業実施期間 文部科学省委託契約締結時から平成31年3月6日まで

4 年間スケジュール

○2018年

- ・5月11日：第1回実行委員会
- ・7月27日：第2回実行委員会
- ・7月28日～29日：ファシリテーター研修合宿（会場：女川町）
- ・8月13日：メンター及び海外大学生事前研修（会場：女川町）
- ・「サマースクール宮城・女川」実施
（8月15・17～21日：女川町，16～17日：自然の家）
- ・8月22日：ファシリテーター事後研修・報告会（会場：女川）
- ・12月16日：実施報告会

○2019年

- ・2月7日：第3回実行委員会
- ・3月6日：事業完了



5 「サマースクール宮城・女川」の実際

○1日目 8月15日(水)

13:00 女川到着

14:00-15:00 開会式 (まちなか交流館)

- ・挨拶 宮城県教育庁生涯学習課長 小野寺 邦貢
HLAB 実行委員長 大橋 修吾
- ・祝辞 女川町長 須田 善明氏
アスヘノキボウ 代表 小松洋介氏
- ・スピーチ 海外大学生 代表 外ハ・エルベリ氏
参加高校生 代表 岡 海咲さん

15:00-17:00 アイスブレイク

17:15-18:45 welcome dinner (女川フューチャーセンター)

18:45-20:00 入浴

20:30-23:00 リフレクション (エル・ファロ)

23:00- 就寝



【開会式】

緊張感の中、宮城県教育庁生涯学習課長 小野寺邦貢及び実行委員長 大橋修吾の挨拶で「サマースクール宮城・女川」がスタートしました。高校生代表のスピーチでは開催地女川町出身の岡海咲さんが、自身の被災経験と町の復興の歩み、変貌を遂げようとしている故郷への想いと戸惑い、その女川で開催されるサマースクールへの期待を堂々と発表しました。英語での進行や挨拶は、初めての経験となる参加者が多く、緊張と期待が入り混じった開会式となりました。最後にこの1週間への思いを込めた風船を、一斉に宙へ放ちました。

【アイスブレイク】

参加者の緊張をほぐすとともに、互いを知るアクティビティを行いました。英語での自己紹介から始まり、3種類の頭と体を使ったアクティビティを行いました。緊張感ただよふ場の雰囲気、活動を進める中で徐々に打ち解け、笑顔が出るようになりました。この一週間への期待を高め合いました。



○2日目 8月16日(木)

- 07:00-07:30 起床
- 07:30-08:30 朝食
- 09:30-10:30 バス移動(女川-自然の家)
- 10:30-12:00 施設利用に関する説明・テント設営
- 12:00-12:45 昼食/休憩
- 12:45-14:45 自然の家アクティビティー
- 14:45-16:45 海外大学生企画レクリエーション
- 17:00-19:30 カレー作り(夕食時間・後片付け含む)
- 19:30-20:30 キャンプファイヤー
- 20:30-22:00 大学生フリーインタラクティブ
- 22:00-23:00 入浴(シャワー)
- 23:00- 就寝

【野外炊飯・キャンプファイヤー】

東日本大震災で壊滅的な被害を受け、再建を進める松島自然の家の野外活動フィールドにおいて、自然に囲まれた非日常の野外活動を楽しみました。

海外大学生によるレクリエーションを楽しんだ後東北福祉大学松島キャンプカウンセラーズの指導のもとテント設営を行い、その後はハウスごとに野外炊飯でカレー作りを行いました。それぞれの生活経験の差を補い合いながら、火おこし、調理、片付けまで全て自分たちで行いました。

夜は、キャンプファイヤーです。火の周りで盛り上がった後は、小さくなった火を見つめながらさらに語り合いました。



○3日目 8月17日(金)

- 06:00-06:30 起床
- 06:30-07:30 朝食（野外炊飯）
- 07:30-08:30 テント片付け
- 08:30-10:00 防災ウォークラリー
- 10:00-12:00 縄文村歴史資料館での研修
- 12:00-12:30 バス移動・昼食
- 12:30-13:30 ディスカバリーセンター見学
- 13:30-14:30 バス移動
- 15:00-18:30 セミナー1日目
- 18:30-20:30 夕食・入浴
- 20:30-21:30 ミーティング
- 21:30-23:00 リフレクション
- 23:00- 就寝



【防災サイクリング・ウォークラリー・縄文村歴史資料館研修】

2日目は明け方からの強風が止まず、残念ながらシーカヤック体験が中止となりました。代わりに2班に分かれて東日本大震災による津波で大きな被害を受けた東松島市宮戸地区（宮戸島）にて、自転車による防災サイクリングと、防災ウォークラリーを行いました。防災サイクリングでは、自転車のフットワークのよさを活用し、月浜と大浜の海岸を見学しました。防災ウォークラリーは宮戸島にある大高森という標高106mの高台に登り、宮戸島全体の地形と、仙台湾の入口に位置する宮戸島のロケーションを確認しました。

その後、全員で「奥松島縄文村歴史資料館」に移動し、菅原館長さんから、地震や津波を繰り返す土地に生きた縄文人から現代までの人々が、その地理的な特徴を生かしてどのように生き抜いてきたのか、先人の経験や知恵を、詳しくご説明いただきました。また、その後2班に分かれて、縄文人が行っていた鹿の角を削っての釣り針作りや、石を削っての勾玉づくりを行いました。

目で見て、体感し、深く感じ取った自然の家での2日間となりました。



○4日目 8月18日(土)

- 07:00-07:30 起床
- 07:30-08:30 朝食
- 08:30-12:10 セミナー2日目
- 12:10-13:30 昼食/休憩
- 14:00-16:00 フォーラム
- 16:30-18:00 ホームカミングディナー
- 18:00-20:30 フリーインタラクション
- 21:30-23:00 リフレクション
- 23:00- 就寝

【少人数セミナー】

海外の大学生と日本人の大学生の2名がメンターとして大学での学びについてディスカッションするもので、多種多様なテーマの中から高校生は自分の関心に合わせて4日間自由に聞きました。高校生にとって、新しい興味分野を発見する機会となりました。



【フォーラム企画】

社会人として第一線で活躍されている人々による講演とパネルディスカッションです。今回は株式会社ベネッセホールディングス執行役の、女川町出身的場一成さんにお越しいただき、女川で過ごされた

高校時代のご経験や、これからの教育改革についてご講演いただきました。教育がテーマというということで、高校生だけではなく大学生も興味深く聞いていました。



【フリーインタラクション】

女川町内外の社会人の方々から、それぞれのキャリアについて話してもらうとともに、高校生、大学生、社会人が世代を超えて本音で語り合う場です。様々な業界で働く社会人の方々と交流できる機会は、高校生にとって自分たちの将来について考えるきっかけとなり、「人生の先輩方」から進路選択や自己理解に関して多くのアドバイスをいただき、宮城の「志教育」に直結した活動となりました。



○5日目 8月19日(日)

- 07:00-07:30 起床
- 07:30-08:30 朝食
- 08:30-12:10 セミナー3日目
- 12:10-13:30 昼食/休憩
- 13:30-16:45 タレントショー
- 17:30-18:15 夕食
- 18:00-20:30 入浴
- 21:30-23:00 リフレクション
- 23:00- 就寝

【タレントショー】

高校生と大学生が自分の得意なところを発表する企画です。自分の可能性をこのタレントショーでさらけ出して、新しい自分を発見しようとするものです。今年は口笛、ポエム、ダンスなどのパフォーマンスが繰り広げられました。そして、最後にはサマースクール宮城・女川 2018 のテーマソングを全員で歌いました。このタレントショーを通して、言葉の壁を越えて一体となり、それぞれの個性を認め合う機会を得ることができました。



【リフレクション】

毎日夜就寝前にハウスごとに今日の振り返りをするとともに、自分の思いや考えを語り合うものです。最初は英語で話すことや、自分の思いを表現することができずに、なかなか話し出せない高校生もいましたが、大学生の巧みな通訳や支援により、自分を出すことができるようになってきました。

思っていること考えていることを表現することで、自分の考えをまとめることで、参加者は徐々に価値観や内的キャリアを確立することになります。サマースクールではハウスごとの安心感や信頼感を基礎としたこのリフレクションの時間を、とても大切にしています。



○6日 8月20日(月)

- 07:00-07:30 起床
07:30-08:30 朝食
08:30-12:10 セミナー4日目
12:10-13:30 昼食/休憩
13:00-16:00 ディスカバー女川
17:30-18:30 夕食・入浴
18:30-21:00 自己分析ワークショップ
女川の中学生との交流企画
(中学生対象セミナー)
21:30-23:00 リフレクション
23:00- 就寝

【Discover Onagawa ワークショップ】

アスヘノキボウの後藤大輝様から、2011年の震災後に女川がどのような変化をしてきたかに関するお話をいただいた後、オーガニック石鹸作り、スペインタイルの絵付け体験、スプレーアート体験の3つに分かれてワークショップを行いました。震災後に女川で起業をしたり、女川で活動を続けたりしている方々のお話も聞き、「世界で一番チャレンジが生まれる町」と称される女川を実感する、貴重な体験となりました。



【自己分析ワークショップ】

リクルートキャリアの安田翔様を講師に迎え、自己分析がどう生活に役立つか講演していただいた後「自分はどんなことに対してワクワクするのか?」について、過去の経験を振り返りながら考えました。サマースクール最終日前夜であったこともあり、高校生にとって自分の感じていた様々な気付きを言語化する良い機会となりました。



【女川の中学生との交流企画】

女川中学校の生徒との交流企画です。海外大学生によるセミナーを、中学生対象で行いました。また、その後交流夕食会を行いました。これまで影響を受ける立場だった高校生が、中学生に積極的に働きかけ、影響を与える側になりました。中学生にとっても進路について考える良い機会となりました。



○7日目 8月21日(火)

- 07:00-07:30 起床
- 07:30-08:30 朝食
- 08:30-09:30 荷造り
- 09:30-10:30 荷物運搬
- 10:30-13:30 閉会式 (女川小学校)

- ・挨拶 教育庁生涯学習課 社会教育専門監
今野 勝美
- ・祝辞 女川町長 須田 善明氏
- ・スピーチ 海外大学生 代表 ネルズ・シェファー 氏
参加高校生 代表 牧 晃大さん

14:00-15:30 Activity Farewell Lunch

【閉会式】

この1週間を振り返るエンディングムービーの上映から始まり、その後ハウス毎に大学生から高校生に終了証を授与しました。

その後、大学生や仲間への感謝の気持ちや、この1週間で学んだこと・感じたこと、将来の夢への宣言等、思い思いに発表し合っていました。また、高校生から大学生への感謝の歌やメッセージの読み上げ等、会場中が感動の渦に包まれていました。

フェアウェルランチ後、それぞれ帰路にたちました。



“CoDesigning your future”

「それぞれの未来を、みんなの手で」

参加者が未来への手がかりを、宮城・女川で掴む一週間となりました。

6 成果報告会

(1) サマースクール宮城・女川 活動報告会 [宮城県庁 講堂] 12月16日(日)

【プログラム】

- ①開会の挨拶 教育庁生涯学習課 課長 小野寺 邦貢
- ②活動報告 HLAB 実行委員長 大橋 修吾
- ③参加高校生によるスピーチ
- ④スピーチ 教育庁生涯学習課 社会教育推進班副班長 青山 修司
女川町教育委員会 教育政策監 春日川真寛 氏
- ⑤参加高校生と教員との交流 ワークショップ 「来年のサマースクールに引き継ぎたいこと」
- ⑥閉会の挨拶 HLAB 実行委員長 大橋 修吾

県内の高校に呼びかけ、参加者の感想やその後の状況を発表するとともに、協力団体の関係各位から高校生に向けてメッセージをいただいた。また、参加者全員でグループ毎にディスカッションを行った。

*⑤について、高校生を中心に来年度のサマースクールに向けての提案は以下のとおり。

- ・女川町の住民との交流を入れる
- ・食事を充実させる
- ・活動のねらいを前もって知らせる
- ・高校生自身が自分で決められる体験を入れる

*高校生9名、保護者及び家族10名、大学生8名、スタッフ12名、計39名 参加



(2) HLAB 合同成果報告会

HLAB が4地区合同の成果報告会を行った。

高校生、保護者、企業、教員、大学生他 計300名 参加

(3) 参加者独自の報告会

- ① 成蹊高等学校, リンデンホールスクール, 國學院大學久我山高等学校, 長崎県立諫早高等学校, 女川町まちなか交流館での報告会
 - ・成蹊高等学校 平成31年2月16日実施 参加生徒・教職員 約200人(来年度の募集前に再度実施)
 - ・リンデンホールスクール 平成30年9月8日実施 参加高校生・教職員 約500人
 - ・國學院大學久我山高等学校 平成30年9月24日実施 参加高校生・教職員 500人(クラス報告会)
 - ・長崎県立諫早高等学校 平成30年12月10日実施 参加高校生・教職員 40人
 - ・女川町まちなか交流館 平成30年9月5日実施 参加高校生・地域の方々 50人
(宮城県石巻高等学校から2人参加。女川町在住。協力団体である女川向学館で主催した、「高校生の夏休みの出来事発表会」にて、サマースクール宮城・女川に参加した感想を発表した。)

7 成果と課題

(1) アンケート調査（要素毎）の比較から

事業実施前と実施後の、参加者の語学力、主体性、外向き思考等を測るアンケートを開会時と閉会時に実施した。特に著しい変容結果が表れたのは、参加者の語学力、チャレンジ精神であった。外向き思考に対する意識は、事後の達成度が92.7%と1番高かった。

| 要素 | 観 点 | 事前 | 事後 | 比 較 | | 達成度 |
|-------|-----------------|------|------|------|--------|-------|
| I-① | 語学力 | 1.95 | 2.31 | 0.36 | 118.5% | 77.0% |
| I-② | コミュニケーション能力 | 2.15 | 2.43 | 0.28 | 113.0% | 81.0% |
| II-① | 主体性・積極性 | 1.67 | 2.00 | 0.33 | 119.8% | 67.7% |
| II-② | チャレンジ精神 | 1.70 | 2.24 | 0.54 | 131.8% | 74.7% |
| II-③ | 協調性・柔軟性 | 2.07 | 2.32 | 0.25 | 112.1% | 77.3% |
| II-④ | 責任感・使命感 | 2.18 | 2.42 | 0.24 | 111.0% | 80.7% |
| III-① | 異文化理解 | 1.79 | 2.00 | 0.21 | 111.7% | 66.7% |
| III-② | 日本人としてのアイデンティティ | 1.53 | 1.83 | 0.30 | 119.6% | 61.0% |
| | 外向き思考 | 2.44 | 2.78 | 0.34 | 113.9% | 92.7% |

○各項目について、「とても思う3点、少し思う2点、あまり思わない1点、全く思わない0点」として集計したもの。

① 成果

○外向き思考、コミュニケーション能力、語学力の値が高い。

・外向き思考 2.78, コミュニケーション能力 2.43, 責任感・使命感 2.42

○本スクールでの活動を通して、チャレンジ精神、語学力、主体性・積極性、外向き思考が大きく上昇した。

・チャレンジ精神 0.54 上昇, 語学力 0.36 上昇

主体性・積極性 0.33 上昇, 外向き思考 0.34 上昇

○様々な分野で活躍される社会人からの講演や、海外大学生とのディスカッションの中から、自分の夢等に向かって挑戦しようとする意識が向上した。

○1週間通して英語に浸る経験を通して、英語に慣れ、また、非言語的なコミュニケーション能力も成長したことにより、逆に語学力に自信を持った様子が見える。

○常に外に目を向け、積極的に関わろうとするとともに、失敗をおそれないチャレンジ精神も向上し、自分の考えを表現する力が身についた。

② 課題

○「異文化理解」「日本人としてのアイデンティティ」が、他と比べて低い。活動の中で和太鼓や法印神楽等の日本の良き伝統文化に触れるとともに、海外の文化を感じることでできるプログラムを加えていく可能性を今後考えていきたい。

(2) 参加者の感想から

参加した高校生の感想から、この1週間で多感な高校生が感じ、得たことが多岐にわたることが感じられた。以下に、主なものを挙げる。

- 将来について考えたいと思いサマースクールに参加した。偏差値や学校を超えて同世代の高校生や大学生と話せる環境があり、とてもよかった。
- 東日本大震災の時は日本にいなかったのので、ぜひ被災地の宮城・女川のサマースクールに参加したかった。宮城・女川でいろんなチャレンジを学べた。
- 吃音があり、言葉がうまく出ず話せなくなることがあるが、サマースクールではハウス（グループ）の仲間に受け入れてもらい、何でも話すことができた。
- セミナーでは、学校で習うより専門的で、普段の生活と関連するところがたくさんあり、ためになった。
- 自分が参加したセミナーが、人権のことなど学校で詳しくやらない公民分野でもともと興味があった分野なので、進路や今後の将来を考える上で参考になった。
- 自分が受けた3つのセミナーで、生きる上で大切なことがたくさん見つかった。
- フォーラムでは、ベネッセの人事部の方が講師で、普段はあまりお話を聞けない方のお話を聞いて、とてもよかった。
- フリーインタラクティブでは、いろんな人生を過ごした人と話せて、「生き方」についてもっと幅広く考えることができた。20分ずつ交代で、同時に入浴もしなければならず、時間が足りなかった。女性の話も聞きたかった。
- リフレクションでは、ハウスのみんなとその日体験したことについて、深いところまで振り返ることができた。ハウスのみんなを信じ、自分をさらけ出して意見を言うことができた。
- リフレクションでは、感じたことは声に出して形にすることを意識した。真剣に話すと、ハウスのみんなも自分の話を真剣に聞いてくれて、とてもうれしかった。
- 松島自然の家でのキャンプはとても楽しかった。海外大学生のレクリエーションも楽しく、英語ばかりで不安だった距離が一気に縮まった。
- 松島自然の家で行った大学生フリーインタラクティブも、大学生になってからしか得られない雰囲気を知ることができ、進学が楽しみになった。
- 自己分析ワークショップでは、人との会話から自分を知る糸口を掴めた。自分自身について主体的に考えられた。このワークショップは、サマースクールの中で一番参加してよかったと思えた。
- サマースクール全体で、自分や仲間と向き合い、将来への不安や苦しみ悩みが楽になって、物事を第三者的な感覚でも考えられるようになった。

(3) 主催・共催・協力団体から

① 成果

- 参加者から、「普段会えない起業家や、トップクラスの研究を行っている海外大生等と見え、繋がりが持てたことが嬉しく、刺激になった。」という感想が多く寄せられた。
- 一方、女川からの参加者に「自分が見ていた女川と全く違う女川を見ることができたのは新鮮だったが、女川の歴史や芸能など、起業や観光以外にも焦点を当てて欲しい。」との感想もあった。
- 主催者や協力団体のアンケートからも、「参加した高校生の自己開示が進み、行動が積極的になった。」等、好ましい変容が多く見られたことが分かった。
- 一方、被災地女川で本事業を行う「ねらい」や「よさ」が、十分発揮されてはいなかったとの記述も多かった。

- 高校教育課渡邊主査から、「英語教育というよりは、英語をとおして多様な価値に触れ、高校生の知見や価値観が高まり、同時に意欲や行動力も高まっているところが素晴らしい。ぜひ、高校生活や今後の進路選択にいかして欲しい。」との助言をいただいた。
- 女川町教育委員会生涯学習課水野派遣社会教育主事から、「回数を重ねる毎に、反省をいかして事業の質が高まっている。今後は女川の生涯学習的な「よさ」、人のあたたかさや芸能といった価値、さらには自然や水産業にも焦点を当ててほしい。」との助言があった。
- とすると受身で指示待ち的な行動スタイルとなっている高校生に対して、本事業は良い刺激と安心感を与え、意欲や行動力を引き出していることが分かった。
- 開会直後は、自分から積極的に自己開示できない、あるいは慣れない英語で積極的に話すことができないなど、今までの日常生活から一歩踏み出したチャレンジができない場面が多く見られたが、数多くのゲストとの会話や、自己分析ワークショップ等のアクティビティ、海外大学生との交流を通じて、少しずつチャレンジすることの楽しさを学んでいく様子が見られた。
- 高校生同士でも異なるバックグラウンドをもつ参加者が一箇所に集まり、共に生活することで、それぞれが互いに良い影響を与え合う好循環が生まれた。
- 既に海外経験がある参加者との交流により、国内だけでなく海外へ視野を広げる参加者がいる一方で、地域に根ざした活動を経験してきた参加者との交流により、自分の住む地域への理解を深めることの大切さを学んだ参加者もいた。
- サマースクール中盤に行われた女川町の中学生との交流企画では、海外大学生が中学生達に少しでも学びを届けられるよう積極的に話しかけ、国際交流が生まれていた。
- 被災地女川町で復興・復旧に取り組む地域の方々や起業家、行政の皆さんと直接ふれあい、女川にかける熱い想いを感じることで、郷土愛を培うとともに、被災地宮城の復興に少しでも役立とうとする気持ちが芽生えた。
- 松島自然の家での活動では、登山、ウォークラリー、野外炊飯、キャンプファイヤー等、自然の中での共同生活から、より緊密な人間関係を培うことができた。また、防災ウォークラリーにより、東日本大震災の被害の大きさを体感することができた。
- 閉会式では、高校生一人一人が大勢の聴衆の前に自ら立ち、サマースクールで学んだことや、これからどんな大人になっていきたいのか、自分の人生をどのように過ごしていきたいのか、堂々と発表し涙を流していた。
- 参加者は、個人差はあるものの確実に「主体性」「積極性」「チャレンジ精神」が育まれ、多くの高校生が外向き思考型へと成長したと考えられる。

② 改善の方向性

- 高校教育課や各高校と連携し、なるべく早い時期から広報を行い、宮城県内の高校生を多く募集したい。また、開催時期を早め、宮城県内の高校の2学期始業式2日前には本事業が終了するよう日程を修正したい。
- 協力団体である HLAB のプログラムの割合が多くなってしまい、宮城県及び女川町の被災地としてのメリットを生かしたプログラムをしっかりと展開できなかった。次年度以降、宮城県及び女川町そ

それぞれの独自のプログラムをバランス良く取り入れ、企画・運営する必要がある。

- 松島自然の家での活動の際に、地域に根ざした防災教育の側面を十分に盛り込ませることができなかった。次年度以降、地域の方々の協力を得ながら、松島の地形と歴史を存分に生かした防災教育のプログラムをより充実させていく。
- タイムスケジュールであったため、参加者及びスタッフに疲労が見られた。また、食事についても量や内容について、日によってバランスに偏りが見られた。幸い大きな事故やけが、体調を崩す参加者はいなかったが、次年度以降は、余裕をもったスケジュール、栄養のバランスを考えた食事の提供、看護師の帯同等、スタッフ及び参加者の体調の管理について最新の注意を払ったものとした。
- 県内外から参加者を募った本事業の成果報告会を、12月に宮城県庁で行うことに難しさがあった。今後は閉会式の中で成果報告会を行うとともに、参加した高校生が所属する高校や各種意見発表会、青年の主張、NPOが主催して行っている全国高校生マイプロジェクト発表会や、U18 東北次世代リーダーカンファレンスプロジェクト発表会等の発表の場に自主的に応募し発表する自主発表会も考えていきたい。また、海外大学生や国内大学生メンターは、サマースクールでの体験を自主的に発表する高校生の伴走者（指導助言）となり、高校生の主体的なアウトプットの機会をコーディネートする仕組みを構築していきたい。

サマースクール宮城・女川 2018 に参加した、仙台二華高等学校の小泉みのりさんから、所属している茶道部の「ひな祭りお茶会」へのお誘いがあり、実行委員で参加させていただいた。小泉さんは、12月に行われたサマースクール報告会で、サマースクールを経験しての自分の変容をオールイングリッシュで発表したり、二華高校からベトナムに派遣された国際交流事業に参加したりしている。今後はカンボジアへの国際交流事業の参加も決まっており、海外留学への意欲も高いことから、今回のサマースクールで大きく成長した一人と言える。今後もこのような参加高校生が出現するよう、関係協力団体や高校教育課、県内の各高校と連携して本事業を進めていきたい。

